

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270104997		
法人名	三菱電機ライフサービス株式会社		
事業所名	長崎ケアハートガーデングループホーム南山手 壱番館		
所在地	長崎市小曾根町1-33(マルタヤ南山手クラブ1階)		
自己評価作成日	2020年12月18日	評価結果市町村受理日	令和3年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	令和3年3月4日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・認知症介護研究・研修センターから講師を招き、定期的に会社全体でセンター方式の拠点別研修やリーダー研修、チューター研修、新人研修をおこなっており、スタッフの育成もしている。センター方式を活用しスタッフ一人一人が利用者様のその人らしさを考え認知症ケアに取り組んでいる。  
 ・施設が長崎港に面しており、長崎港への大型客船入港や、花火大会などを特等席で観覧する事ができる。近隣にグラバー園もあり、散歩を行う際も、景色や雰囲気がとてもいい町並みを堪能することができる  
 ・会社がフード事業もしており、スタッフ育成も徹底している。社内安全衛生巡視も定期的に行っている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、母体法人本部の講師指導による職員育成やセンター方式を取り入れ、介護理念「寄り添うケア、なじみの関係、その人らしくさりげなく出来る事はしてもらう」の具現化を目指している。例年地域行事に参加し、ホーム長が地域公民館の教養講座や中学校職業講話の講師を担うなど地域の信頼を得、交流を深めている。新型コロナ禍で外出を自粛する中、職員が毎月アイデアを出し合いホーム内に「花見」や「紫陽花祭り」を飾り付ける他、ベランダピクニック等ホーム全員が笑顔で暮らしている様子が窺える。また、面会制限中の家族へ毎月の便りその様子を届け、家族との信頼関係が深まっている。職員は「その人らしさをみつける視点」で利用者一人ひとりの言葉から思いを汲み取り介護計画書に繋げている。利用者が自信を取り戻し、生き生きとした生活を実現していることは特筆すべきである。ホームから長崎港に面する造船所を見渡せ、昔汗を流した馴染みの職場を日々眺めながら過ごしている他、新聞購読や家事仕事等在宅時代の楽しみや役割を継続する様子も窺えるホームである。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は毎日の理念を復唱し、基本理念である「寄り添うケア、なじみの関係、その人らしくさりげなく出来る事はしてもらう」を念頭にケアを行っている。	職員は毎朝理念を唱和し理解を深めている。ホーム長は理念にある「その人らしく」を念頭に「できること」に着目し、新人職員にも見守り支援することを伝えている。センター方式の取組みが理念の実践に繋がっており、利用者と職員の明るく、穏やかな表情も窺えプラスの連鎖を生み出している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事である夏祭りや、えびす神社祭り、防災訓練などにも参加している。地域の郵便局にも、ご利用者と出掛けたりしている。グループホームの防災訓練にも地域の方に見学に来てもらい意見を頂いていたが、現在コロナウイルスによって参加できていない状況である。	新型コロナ禍により、地域行事や公民館の催し、ホーム内での踊りの慰問などが中止となっている。例年実施の中学校職業講話は、学生とホーム長の電話のやり取りで、介護の質問に答えている。また、地区の教養講座の講師や神社祭りの要員など地域の一員としての役割を担っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域ケア会議に参加し、地域の現状把握と支援できることの情報共有を行っている。地域にある老人憩いの家つばき荘にて、月一回ある教養講座の講師として、年に一回は認知症の話をしたり、ケアピクスや脳トレを行わせて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、コロナウイルスの影響で、ソーシャルディスタンスを守る為に、運営推進会議を施設で行わずに、封書にて施設の概況や行事報告を行い、電話にてご意見を聞き、議事録として残し、ご家族様や参加者へ議事録を郵送している。	昨年度第6回から今年度も引き続き、新型コロナウイルス感染防止の為、書面会議である。運営推進委員に封書で活動報告を行い、電話にて意見を聴取した上で議事録を市へ提出している。ただし、現在4回目を終えており、年度末に5回目を予定し、規程の6回の開催は難しい状況である。	省令である年6回の運営推進会議を確実に開催することが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員の受け入れを行っている。困りごとや、相談事については、すこやか支援課等に、相談する様にしている。運営推進会議でのすこやか支援課や地域包括支援センター担当者様との意見交換などを行い協力関係を築くようにしている。	新型コロナ禍による自粛前までは介護相談員の受け入れを行い、報告内容を支援に活かしている。行政から案内がある研修に職員が参加している。日頃から不明な点は、担当課に電話などで問い合わせている。サービスの取組みを積極的に伝え、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしないという事を、代表者、スタッフも理解しており、3ヶ月に1回の身体拘束委員会を開催しており、身体拘束になるのかもしれないかの会議を行っており、年に2度必ず身体拘束の勉強会を行っている。	身体拘束の適正化に向けた委員会を3ヶ月に1回開いている。職員研修計画に沿って年2回、指針を基に身体拘束のないケアについて勉強会を行っている。言葉の拘束はその都度、ホーム長が指導し、職員同士でも注意し合うなど拘束のない支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ会議の中で時間をとり、勉強会も、行っている。虐待は絶対にあってはならない事、職員全員が認識しており、見過ごされる事が無い様に、注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護、成年後見制度については、研修会等で学ぶ機会もあり、施設での勉強会も行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結、改定時の際には、家族に充分説明を行い、契約書等にサイン、捺印頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族訪問時には、意見、要望を聞く様にしている。お聞きした意見、要望はスタッフ全員で共有し改善できる点はしている。ご意見箱も設置しており御家族の意見、要望を把握できるようにしている。	苦情相談の窓口や手順は明文化し、契約時に説明している。毎月、利用者の写真入りの事業所便りや2ヶ月毎の運営推進会議の議事録を送付し、家族の理解と安心に繋げている。家族の要望は面会時に聞くことが多いが、コロナ禍の中では電話やメールで利用者の状況を伝え、意見要望の抽出に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員はいつでも意見や提案が、出来る様にしている。その他、月1回のスタッフミーティングでも聞く様にしている。年に一回職場懇談会も行っておりスタッフの意見や要望を聞き入れる場を設けている。	職員は、毎月のスタッフミーティングや日々の業務の中で意見や要望を伝えている。管理者は年1回、個人面談を行い職員の要望を聞き取っている。また、希望休や勤務希望など取り入れ、働きやすい職場づくりに努めている。トイレの棚の設置や脱臭機の購入など職員意見の反映がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度初めに、職員全員に職場と仕事の状況確認書を書いてもらい、面談を行い、要望を聞き、職場環境条件の整備に努めている。希望休なども、可能な限り要望を受け入れるシフト作りを行っている。希望休なども可能な限り要望を受け入れるようにしている。年5回以上の有給休暇もとれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外での研修には、出来るだけ参加している。社内研修も充実している。新人に対しては、受け入れ時の研修はもちろん、実技は先輩スタッフに付いて実習している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会で他の事業所との交流を行ったり、社内では、他支店との社内研修を行ったり、情報交換、交流する機会を作ってサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	基本情報をもとに本人が困っている事、不安な事を把握し、コミュニケーションの中で素早く察知し共感し、信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	基本情報の中に、家族の困りごと、不安なども記入して頂いた上で、御家族の要望に耳を傾け関係づくりに努めている。ホームでの家族のケアの方針を家族に説明し、ご家族と共に、本人のここでの生活を援助する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者のご家族に、ここでの生活についての、要望をお聞きし、最初に支援しなければいけない事を見極めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者にお手伝いして頂ける事は、一緒にして頂き、ここで暮らしている一員として、私達も助けられているという、支えあう関係作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者にとっての一番を第一に考え、家族の面会、外出などの支援などをお願いし、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族にも協力して頂き、かかりつけの美容室につれて行って頂いたり、馴染みの美容師が訪問してくださっている。	面会は多く、家族や親戚の他、自宅近辺の住民やコーラス仲間などの訪問がある。利用者は家族の協力で結婚式へ出席したり、行きつけの美容院へ行っている。また、馴染みの美容師が来て整髪する利用者もいる。コロナ禍では制限があり、窓越しの面会や手紙、電話で継続支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がうまくコミュニケーションが取れない場合は、スタッフが間に入り、関わり合いがもてる様支援している。ソファ一席など関係性を考慮して座席を決めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院で契約終了になる方が、ほとんどだったが、お見舞いに行ったり、ご家族に様子を伺ったり、経過フォローなどをし、相談支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時に以前の暮らしを、利用者、ご家族にお聞きし、希望意向の把握を行うことと、基本情報シートへの記入により、利用者にとってより良い暮らしの支援に努めている。	職員は毎日、利用者と会話する時間を多く持つように努めている。難聴や発語困難な利用者は筆談や表情などで判断している。利用者の暮らし方の意向を尊重し一人一人の生活パターンを職員で共有し、無理強いのない支援を心掛けている。また、聞き取った思いを記録し職員間で共有し、介護計画書に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、ご家族にお聞きしたり、センター方式のシートに記入をお願いしたり、利用者とのコミュニケーションの中から、生活歴、馴染みの暮らし方、サービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式のシートを使うことによって、一日の過ごし方や心身状態をグラフによって表し把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族が面会に来られた際は、必ず現在の状態の報告を行い、シートに記入した利用者本人の言葉や言動を元に、カンファレンスを行い、利用者に応じた、介護計画書を作成している。	利用開始より暫定3ヶ月の介護計画を立てている。センター方式を継続し、担当制により各職員が24時間シートで利用者の言葉や行動を詳細に汲み取り、その意味や原因を考察し個別の介護計画書を作成している。毎月モニタリングを実施し6ヶ月毎に本人・家族の要望を基に計画を見直し、その都度家族の同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	センター方式D4シートをケース記録として使用している為、一つの行動の意味や気づきを考えながらシートに記入しており、記入した内容をケアカンファレンスや毎日の見直しで共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	近くに家族がいらっしゃらない方などは、家族が変わって出来る限りの対応をし、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で行われる、つばき荘の教養講座など、参加する事により、心身の力を発揮しながら、地域住民と顔なじみになる事で、地域での安全面でも支援して頂ける様にしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	紹介する主治医が数名おり、ご家族や利用者の意思と希望を尊重して頂ける、主治医をご紹介し、事業所、家族、かかりつけ医の関係を築けるよう支援している。	数名の協力医を紹介し、本人・家族の希望に沿い往診等適切な医療支援を行っている。従前のかかりつけ医も継続可能としている。基本的に通院は家族同行で受診後の報告を記録している。都合により職員同行の場合もある。看護師を配置し、看護日誌等で職員間の連携を図っている。夜間緊急時は主治医の指示にて対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送りや看護日誌などにて、看護師との医療的な部分の情報の共有を行っており、医学的な部分は、看護師との、相談により支援を行っている。医者の往診日には看護師も一緒に往診対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は、ソーシャルワーカー、看護師との情報交換や、週一回の面会やリハビリの様子を見学に行ったりし、早期に退院に向けての相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の段階で重度化した場合、終末期については、ホームの方針を伝えている。重度化した場合は、早い段階で、今後の対応について主治医も含めて、ご家族の意向も踏まえながらホームが出来る事を十分に説明し、支援に取り組んでいる。	昨年度は1例の看取り支援がある。利用開始時に重度化した場合の指針を家族と共有している。終末期は主治医の意見を基に再度説明し、家族の心の揺れに配慮し状況変化の都度、同意を得ている。また、看取り時はホーム長も泊まり夜勤職員をフォローしている他、内部研修を開き、職員間の知識の共有を図り積極的に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習については、全スタッフが講習を受けており、救命、応急のマニュアル本を設置しており、いつでも見れる状態にある。利用者各自の急変時の対応をスタッフがいつでも確認出来る場所に配置してある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	災害対策として、災害対策マニュアルとの配置と緊急連絡網を作っている。災害時の緊急避難場所として、公民館への誘導を行う事も、年間2回の避難訓練を通して、スタッフ全員に知らせている。月一回通報訓練・避難誘導訓練・消火器訓練も行っている。	年間消防計画をたて、毎月自主訓練を行っており、総合訓練を年2回夜間想定で実施し、内1回は消防署が立会っている。防災袋の中身や防災ヘルメットの使い方などを勉強会で再確認しており、備蓄の整備もある。自治会長他、近隣住民の協力も得ている。ただし、自然災害については、マニュアル整備や職員への周知が十分ではない。	今後の更なる自然災害対策として、ホーム内に留まる際の手順も含め、自然災害対策マニュアルを整備すると共に、全職員への周知徹底に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損なわない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、尊厳を持ち、一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを損なわない、言葉かけを行っている。トイレのパット類の収納は、プライバシーを損なわない様、名前をそのまま書かず、イニシャルで書き、誰のパットかわかるようにしている。	個人情報取り扱いは、写真掲載を含め同意の署名を得ている。個人情報の保管場所も適切である。また、職員は採用時に守秘義務の誓約書を提出している。利用者へは苗字にさん付けで声掛けし、トイレ介助や入浴介助時は羞恥心に配慮した支援を心掛けている。更に、プライバシー保護の研修を実施し、職員へ周知を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でも利用者の思いや希望を聞くようにしている。選択してもらえよう、働きかけをしている。本人の思いや希望を言い表せない利用者様には、センター方式のD4シートを活用し、本人様の訴えを行動や動きなどで考え、支援できるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	24時間の時間に沿ったケアプランを作っている。利用者一人ひとりのペースに合わせて過して頂けるよう、希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容室など、昔からいっている所へ家族の方が連れていかれたり、月一回訪問美容室に来て頂き、ヘアカラーやその人らしいおしゃれを支援している。洋服を選ぶ際も、ご自分で選ぶことができる利用者様には、一緒に服を選んで頂くなど行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理準備ができる利用者様には、もやしの根とりなどを行って頂いている。スタッフと一緒に下膳など出来る事はして頂いている。食事は、スタッフも一緒に会話しながら楽しく頂いていたが、現在コロナ禍である為、中止している。	献立は職員が立て、各ユニットが主菜、副菜を分担し、利用者の嗜好やアレルギーに対応し、食べやすい形状で調理している。行事食や郷土料理、季節に合わせた料理を取り入れ、ペランダで弁当を広げたり、出前やノンアルコールビールを飲んだり、また、在宅時の習慣の食べ物も個別の希望に沿うなど楽しむ工夫に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量はチェック表に記入し、一日を通して、確保できるようにしている。一人一人の状態に合わせて、トロミ、刻み色、お粥、ミキサー食、ムース食を提供している。在宅で毎日食べられていた食べ物なども、個別で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアは声掛けにて、行って頂いてます。変化があった場合は、歯科医に、往診してもらったり、家族の方にて、かかりつけ医に受診に行かれています。口腔ケア研修にも参加し、施設での勉強会も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をつける事により、排泄パターンを把握し、トイレでの排泄が増えるよう排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄チェック表を基に、職員は利用者の排泄リズムを把握・共有し、日中はトイレでの座位排泄を基本として支援を行っている。各利用者の排泄状況を記録し、改善に向けた検討を行っている。パッド使用枚数の減少やリハビリパンツから布パンツへ改善した事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量にも気をつけて、食物繊維を多く含む献立を考えたり、毎日の体操で腹筋を使う工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一日おきの入浴をして頂く様にしているが、毎日入りたい方は、毎日入られたり、午前中、午後、希望に応じて対応し、個々にそった支援をしている。	入浴は毎日準備し、1日おきの入浴を基本としているが、利用者の体調や気分に合わせて対応している。また、毎日や午前、午後入浴、同性介助の希望に応じている。車椅子の利用者は足浴にシャワー浴で支援している。利用者毎に湯を張り替え、季節の菖蒲湯など楽しい入浴支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、自由に居室でくつろいで頂いたり、消灯時間は、以前の生活と変わらない様に利用者が決めている。日中から安心して、落ち着いた生活をして頂き、そのまま夜につなげ安眠して頂く。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院の処方箋により、名前、目的、副作用をいつでも確認できる場所に保管しているので、必ず確認する様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事に依りて役割を持って頂き、生活歴や現在できることから楽しみ事を探し、気分転換を図ってもらえるような支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、出来るだけ散歩に出かける様にしている。花見や、遠足、外食など、少し遠い所へもドライブに出かけ、気分転換をして頂いている。御利用者の希望に添える様に、ご家族にも協力して頂いている。	季節の花見や地域のイベントへ参加したり、車椅子の利用者も一緒に出掛けている。天気の良い日の散歩や近くのレストランで外食や郵便局へ手紙を投函に行くなど気軽に外出している。コロナ禍では制限があり、ペランダでのピクニックや日光浴などで気分転換を図っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は、お金を所持されている方は、いらっしやらない。希望があれば添うような支援はしたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が電話をしたいとの訴えがあれば、御家族等に電話を掛けて頂いている。手紙も本人様のご希望があれば、手紙も書いて頂き、一緒に郵便局に手紙を出しに行くなど行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・四季の花を玄関先に植えたり、リビングに絵を飾る等している。 ・全ての窓にフィルムを貼り、室内の温度を調整すると共に激しい日光の光を遮断している。	リビングからは長崎港が一望でき、自然光で明るい空間である。利用者はソファで寛ぎ新聞を読んだり、洗濯物をたたんだり、足こぎ運動など思い思いに過ごしている様子が窺える。キッチンで職員が利用者に語り掛けながら調理する様子は家庭的である。随所に加湿器を配置しており、職員は毎日の清掃と共に室温、湿度調節に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの座席は、気の合った方同士が、一緒に座れる様に、席を考え工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前より馴染みのある物、使い慣れた家具など出来るだけ、持って来て頂き、思い思いに過ごせる様にしている。	使い慣れた家具やテレビ、家族の写真や位牌、退職後も愛用する社名付きの帽子などを持ち込み、これまでの暮らしを継続する様子が窺え、落ち着いた居室となっている。災害に備え全居室に防災ヘルメットと防災袋を配置している。職員は季節ごとの行事の写真を飾っている他、換気や温度調節、清掃を行い環境整備に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事はして頂き、出来ない所はお手伝いしながら、安全かつ自立した生活に近づける様、工夫している。		

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270104997		
法人名	三菱電機ライフサービス株式会社		
事業所名	長崎ケアハートガーデングループホーム南山手 式番館		
所在地	長崎市小曾根町1-33(マルタヤ南山手クラブ1階)		
自己評価作成日	2020年12月18日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和3年3月4日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・認知症介護研究・研修センターから講師を招き、定期的に会社全体でセンター方式の拠点別研修やリーダー研修、チューター研修、新人研修をおこなっており、スタッフの育成もやっている。センター方式を活用しスタッフ一人一人が利用者様のその人らしさを考え認知症ケアに取り組んでいる。</p> <p>・施設が長崎港に面しており、長崎港への大型客船入港や、花火大会などを特等席で観覧する事ができる。近隣にグラバー園もあり、散歩を行う際も、景色や雰囲気がとてもいい町並みを堪能することができる</p>
---

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p></p>
---------

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は毎日の理念を復唱し、基本理念である「寄り添うケア、なじみの関係、その人らしくさりげなく出来る事はしてもらう」を念頭にケアを行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事である夏祭りや、えびす神社祭り、防災訓練などにも参加している。地域の郵便局にも、ご利用者と出掛けたりしている。グループホームの防災訓練にも地域の方に見学に来てもらい意見を頂いていたが、現在コロナウイルスによって参加できて		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域ケア会議に参加し、地域の現状把握と支援できることの情報共有を行っている。地域にある老人憩いの家つばき荘にて、月一回ある教養講座の講師として、年に一回は認知症の話をしたり、ケアピクスや脳トレを行わせて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、コロナウイルスの影響で、ソーシャルディスタンスを守る為に、運営推進会議を施設で行わずに、封書にて施設の概況や行事報告を行い、電話にてご意見を聞き、議事録として残し、ご家族様や参加者へ議事録を郵送している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員の受け入れを行っている。困りごとや、相談事については、すこやか支援課等に、相談する様にしている。運営推進会議でのすこやか支援課や地域包括支援センター担当者様との意見交換などを行い協力関係を築くようにしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしないという事を、代表者、スタッフも理解しており、3ヶ月に1回の身体拘束委員会を開催しており、身体拘束になるのかならないのかの会議を行っており、年に2度必ず身体拘束の勉強会を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ会議の中で時間をとり、勉強会も、行っている。虐待は絶対にあってはならない事、職員全員が認識しており、見過ごされる事が無い様に、注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護、成年後見制度については、研修会等で学ぶ機会もあり、施設での勉強会も行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結、改定時の際には、家族に充分説明を行い、契約書等にサイン、捺印頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族訪問時には、意見、要望を聞く様にしている。お聞きした意見、要望はスタッフ全員で共有し改善できる点はしている。ご意見箱も設置しており御家族の意見、要望を把握できるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員はいつでも意見や提案が、出来る様にしている。その他、月1回のスタッフミーティングでも聞く様にしている。年に一回職場懇談会も行っておりスタッフの意見や要望を聞き入れる場を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度初めに、職員全員に職場と仕事の状況確認書を書いてもらい、面談を行い、要望を聞き、職場環境条件の整備に努めている。希望休なども、可能な限り要望を受け入れるシフト作りを行っている。希望休なども可能な限り要望を受け入れるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外での研修には、出来るだけ参加している。社内研修も充実している。新人に対しては、受け入れ時の研修はもちろん、実技は先輩スタッフに付いて実習している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会で他の事業所との交流を行ったり、社内では、他支店との社内研修を行ったり、情報交換、交流する機会を作ってサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	基本情報をもとに本人が困っている事、不安な事を把握し、コミュニケーションの中で素早く察知し共感し、信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	基本情報の中に、家族の困りごと、不安なども記入して頂いた上で、御家族の要望に耳を傾け関係づくりに努めている。ホームでの家族のケアの方針を家族に説明し、ご家族と共に、本人のここでの生活を援助する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者のご家族に、ここでの生活についての、要望をお聞きし、最初に支援しなければいけない事を見極めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者にお手伝いして頂ける事は、一緒にして頂き、ここで暮らしている一員として、私達も助けられているという、支えあう関係作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者にとっての一番を第一に考え、家族の面会、外出などの支援などをお願いし、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族にも協力して頂き、かかりつけの美容室につれて行って頂いたり、馴染みの美容師が訪問してくださっている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がうまくコミュニケーションが取れない場合は、スタッフが間に入り、関わり合いがもてる様支援している。ソファ一席など関係性を考慮して座席を決めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院で契約終了になる方が、ほとんどだったが、お見舞いに行ったり、ご家族に様子を伺ったり、経過フォローなどをし、相談支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時に以前の暮らしを、利用者、ご家族にお聞きし、希望意向の把握を行うことと、基本情報シートへの記入により、利用者にとってより良い暮らしの支援に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、ご家族にお聞きしたり、センター方式のシートに記入をお願いしたり、利用者とのコミュニケーションの中から、生活歴、馴染みの暮らし方、サービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式のシートを使うことによって、一日の過ごし方や心身状態をグラフによって表し把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族が面会に来られた際は、必ず現在の状態の報告を行い、シートに記入した利用者本人の言葉や言動を元に、カンファレンスを行い、利用者に応じた、介護計画書を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	センター方式D4シートをケース記録として使用している為、一つの行動の意味や気づきを考えながらシートに記入しており、記入した内容をケアカンファレンスや毎日の見直しで共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	近くに家族がいらっしゃる方などは、家族が変わって出来る限りの対応をし、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で行われる、つばき荘の教養講座など、参加する事により、心身の力を発揮しながら、地域住民と顔なじみになる事で、地域での安全面でも支援して頂ける様にしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	紹介する主治医が数名おり、ご家族や利用者の意思と希望を尊重して頂ける、主治医をご紹介し、事業所、家族、かかりつけ医の関係を築けるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送りや看護日誌などにて、看護師との医療的な部分の情報の共有を行っており、医学的な部分は、看護師との、相談により支援を行っている。医者の方針日には看護師も一緒に往診対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は、ソーシャルワーカー、看護師との情報交換や、週一回の面会やリハビリの様子を見学に行ったりし、早期に退院に向けての相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の段階で重度化した場合、終末期については、ホームの方針を伝えている。重度化した場合は、早い段階で、今後の対応について主治医も含めて、ご家族の意向も踏まえながらホームが出来る事を十分に説明し、支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習については、全スタッフが講習を受けており、救命、応急のマニュアル本を設置しており、いつでも見れる状態にある。利用者各自の急変時の対応をスタッフがいつでも確認出来る場所に配置してある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	災害対策として、災害対策マニュアルとの配置と緊急連絡網を作っている。災害時の緊急避難場所として、公民館への誘導を行う事も、年間2回の避難訓練を通して、スタッフ全員に知らせている。月一回通報訓練・避難誘導訓練・消火器訓練も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損なわない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、尊厳を持ち、一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを損なわない、言葉かけを行っている。トイレのパット類の収納は、プライバシーを損なわない様、名前をそのまま書かず、イニシャルで書き、誰のパットかわかるようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でも利用者の思いや希望を聞くようにしている、。選択してもらえるような、働きかけをしている。本人の思いや希望を言い表せない利用者様には、センター方式のD4シートを活用し、本人様の訴えを行動や動きなどで考え、支援できるよう心掛		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	24時間の時間に沿ってのケアプランを作っている。利用者一人ひとりのペースに合わせて過ぎて頂けるよう、希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容室など、昔からいっている所へ家族の方が連れていかれたり、月一回訪問美容室に来て頂き、ヘアカラーやその人らしいおしゃれを支援している。洋服を選ぶ際も、ご自分で選ぶことができる利用者様には、一緒に服を選んで頂くなど行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理準備ができる利用者様には、もやしの根とりなどを行って頂いている。スタッフと一緒に下膳など出来る事はして頂いている。食事は、スタッフも一緒に会話しながら楽しく頂いていたが、現在コロナ禍である為、中止している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量はチェック表に記入し、一日を通して、確保できるようにしている。一人一人の状態に合わせるため、トロミ、刻み色、お粥、ミキサー食、ムース食を提供している。在宅で毎日食べられていた食べ物なども、個別で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアは声掛けにて、行って頂いてます。変化があった場合は、歯科医に、往診してもらったり、家族の方にて、かかりつけ医に受診に行かれています。口腔ケア研修にも参加し、施設での勉強会も行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をつける事により、排泄パターンを把握し、トイレでの排泄が増えるよう排泄の自立にむけた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量にも気をつけて、食物繊維を多く含む献立を考えたり、毎日の体操で腹筋を使う工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一日おきの入浴をして頂く様にしているが、毎日入りたい方は、毎日入られたり、午前中、午後、希望に応じて対応し、個々にそった支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、自由に居室でくつろいで頂いたり、消灯時間は、以前の生活と変わらない様に利用者が決めている。日中から安心して、落ち着いた生活をして頂き、そのまま夜につなげ安眠して頂く。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院の処方箋により、名前、目的、副作用をいつでも確認できる場所に保管しているので、必ず確認する様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事に依りて役割を持って頂き、生活歴や現在できることから楽しみ事を探し、気分転換を図ってもらえるような支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、出来るだけ散歩に出かける様にしている。花見や、遠足、外食など、少し遠い所へもドライブに出かけ、気分転換をして頂いている。御利用者の希望に添える様に、ご家族にも協力して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は、お金を所持されている方は、いらっしやらない。希望があれば添うような支援はしたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が電話をしたいとの訴えがあれば、御家族等に電話を掛けて頂いている。手紙も本人様のご希望があれば、手紙も書いて頂き、一緒に郵便局に手紙を出しに行くなど行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・四季の花を玄関先に植えたり、リビングに絵を飾る等している。 ・全ての窓にフィルムを貼り、室内の温度を調整すると共に激しい日光の光を遮断している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの座席は、気の合った方同士が、一緒に座れる様に、席を考え工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前より馴染みのある物、使い慣れた家具など出来るだけ、持って来て頂き、思い思いに過ごせる様にしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事はして頂き、出来ない所はお手伝いしながら、安全かつ自立した生活に近づける様、工夫している。		